

【杉並区教育ビジョン2022】 私たちが大切にしたい教育
『みんなのしあわせを創る杉並の教育』
ともに尊重し、大切にしたいことは以下の3点
・学び合い、信頼をつくり、共に生きる
・違いを認め合い、自分らしく生きる
・誰もが社会の担い手として生きる

1 学校教育目標

持続可能な社会の創り手として、豊かな人生を「自立・創造・協働」しながら切り拓く力を備えた、礼儀正しく人間性豊かな児童の育成を目指す。

○考えて やりぬく浜小の子

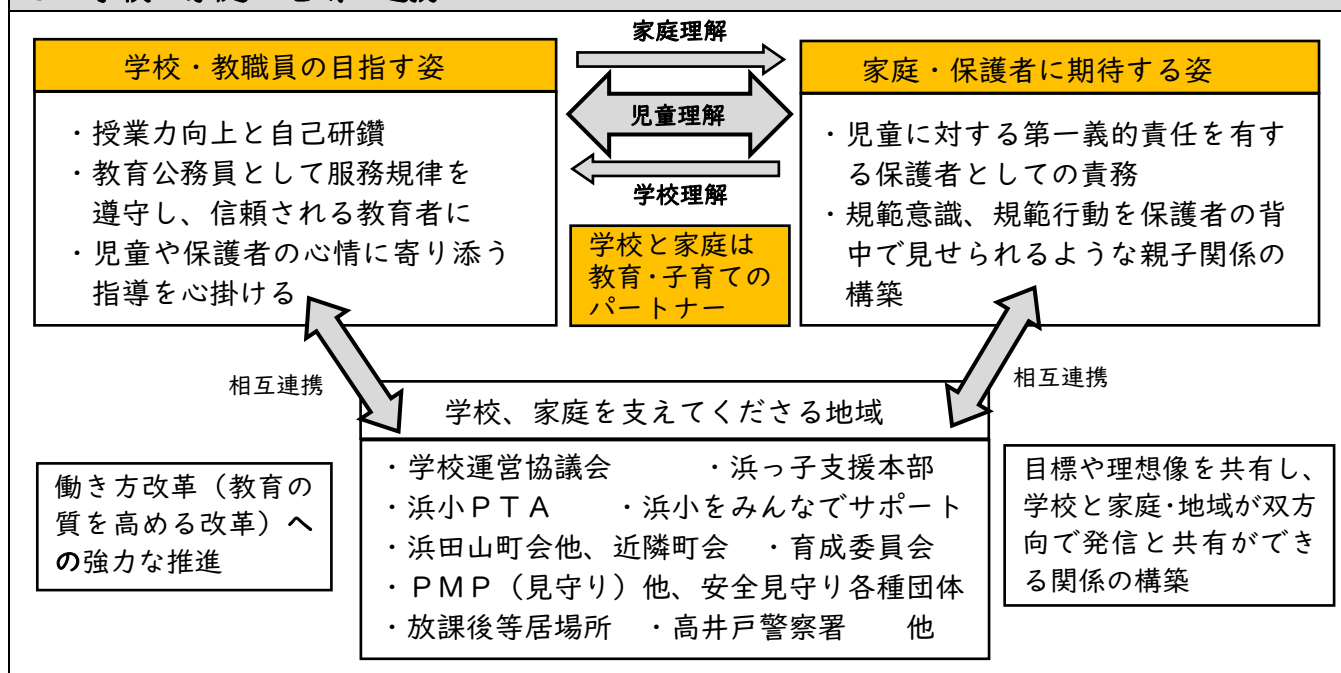
◎やさしく 助け合う浜小の子

○明るく つよい浜小の子

2 学校教育目標に照らし合わせた、めざす学校像、児童像

考えて やりぬく浜小の子	◎やさしく 助け合う浜小の子	明るく つよい浜小の子
情報の選択や活用ができ 発信する児童が育つ学校	自他を尊重し 思いやりのあふれる学校	元気で明るく 根気強い児童が育つ学校
主体的・対話的に学び、 発信する児童	心豊かで、 友達と協働する児童	前向きで粘り強く、 やり遂げようとする児童
・ICT機器を活用し情報収集、活用能力を育成する学習の推進 ・全学習活動で児童自身が課題設定する場を増やし、特別活動を中心とした自ら考え、行動、解決、発信する力の育成	・挨拶やコミュニケーション等を通じて自己受容、他者理解を深め、協働性や道徳心をはじめとした非認知能力を身に付ける児童の育成 ・個も集団も大切にできる学習機会の創出	・教職員も児童も、みんな元気で明るい学校生活の日常化 ・最後まで粘り強く取り組むことへの価値付けと、成果だけではなくその過程における評価や賞賛の励行

3 学校・家庭・地域の連携



4 本校の現状と課題等について

(1) 本校の現状

- ・全国学力・学習状況調査の学力部分に関する結果では、ここ数年大変高い水準で推移。通塾率の高さも関係していると思うが、本校の日々の授業での実践や学年を基盤とした学級経営の安定さ、集団での指導体制による「学校生活の安定した過ごし方」も関係していると分析している。今後も児童に主体性をもって活動させる授業力の向上、「安心・安全」を念頭に置いた教育活動の推進で学力の安定化を図っていく。そのためには、教師自身も主体的に能動的に児童にかかわっていく。
- ・各種質問調査や校内研アンケートでは、自己肯定感はそれほど低くない。一方で、他人が困っているときに手を差し伸べる、という他者とのかかわりに関する質問については、ここ数年、毎年低めの数値である。他者への思いが高まるような機会を教育活動に組み込み、他者理解につなげる。

		全国	東京都	浜田山
人が困っているときは、すすんで助けていますか	令和7年度	49.2	47.1	37.4
	令和6年度	46.0	44.9	40.5
	令和5年度	45.6	44.8	34.4
	令和4年度	44.9	43.7	36.7
	令和3年度	43.6	40.8	39.8
	令和元年度	40.4	37.6	27.6

(2) 地域の中の学校として

- ・普通教室の不足、大規模校の人数に見合わない校庭と体育館、校舎の広さという環境の中、限られた施設と人材でよりよい教育を推進するために、学校と地域が一体となって連携を強化する。

(3) 「理想像」を「強み」に

- ・「協力や応援をしたくなる学校」「学校と家庭は児童育成のパートナー」の一層の理解と推進
- ・「心の教育」を重視し、自己受容、他者理解の推進と非認知能力の育成を最大の目標とする。
- ・いじめ防止対策は未然防止を第一に考え、関係者すべてに寄り添う気持ちで迅速に対応。
- ・「安心・安全」を最優先にした教育課程の編成と教育活動の推進。

5 さらに高みを目指して

「地域の中の学校」の推進

- 学校だより、学校HP、CSだより、tetoruを通じ、教育活動に関する積極的な発信と受信。
- 学校運営協議会、学校支援本部や青少年育成委員会、民生委員、学童クラブ等の地域諸団体と連携を図り、学校見守り制度の認知と確立とともに地域全体で育てる環境づくりを強く推進。

「教師としてのプロ意識」の向上

- 校内研修と自己研鑽による、服務事故防止への取組の推進と徹底。「まず教師が見せる、変わる」また、児童理解に不可欠な「特別支援教育」「人権」「多様性」について特に深く広く学び、様々なタイプの児童に寄り添った対応を心がける
- 学年内、あるいは管理職への迅速で正確な「報告、連絡、相談」と、そのための記録。保護者への電話連絡と情報共有の徹底。ともに日常化を図る。
- 経営支援部を中心に、主幹教諭、主任教諭がリーダーとなって短時間でも持続的で効果的なOJTの推進。常にスキルや思考のアップデートを目指す。
- 全教職員が「寄り添う気持ち」と「毅然と指導できる態度（そこに愛はありますか？を自答しながら）」の両方をもち合わせ、適切な指導を心掛ける。毎月の生活目標は教職員も遵守する。

「児童と向き合う時間」「自分と向き合う時間」の確保

- 時程、行事の見直しを短期間サイクルで見直し、日程や内容に余力のある学校運営を進める。
- 「教育の質を落とさない」前提で校務改善、働き方改革を断行。
職員一人一人のライフ・ワーク・バランスを反映させ、「しあわせな職場づくり」の構築を図る。
- ICT機器をはじめとする校務DXの推進により、校務全般の効率化、ICT日常化を図ることで、児童と向き合う時間や自分と向き合う時間、教材研究の時間の確保を目指す。そのことで生まれる気持ちの「余白、余裕」を常にもちながら、日々の校務を行う。